

「読むこと」領域における授業実践例

① 学年・単元名 第2学年「読んで考えたことを話そう」

② 単元のねらい

「時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取り、自分の知識や生活経験と比べながら読む力」

③ 指導の工夫

言語活動に「自分の生活経験と結び付けた振り返りを書く」ことを設定した。毎時間の終末で、教材文から読み取った獣医の仕事に関して、同じような経験や似たような考え方をしたことがないか、振り返りとして書くことにより、仕事の訳や工夫について、細かい部分まで読み取ることができるようにした。

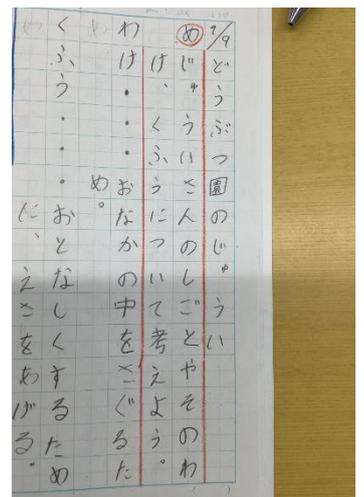
④ 活用したツール クラウド型授業支援アプリ…ロイロノート

⑤ 実践内容

・ロイロノートを活用し、獣医の仕事について「いつ」「どのどうぶつに」「どんなしごとをしたのか」を表にまとめる活動を行った。表に当てはまる言葉を考える際、教材文を撮った写真に赤色で線引きをする活動を入れた。この活動を小集団で相談しながら行ったことで、仲間の意見を取り入れながら、三点を見つけていくことができた。また、自分の考えに自信がもてた児童も増えた。ほかにも、毎時間この活動を取り入れたことにより、各段落のはじめには「いつ」が書かれており、その次に動物の名前、そして仕事の内容や工夫が書かれているという文章構成を理解することにもつながった。表に入力する場面では、仕事の内容について書かれている文をなるべく短い言葉でまとめられるように、入力した言葉を小集団の中で見せ合いながら進めていくようにした。こうしたことで、入力にかかる時間が短縮でき、その後の全体交流の時間を多く取ることができた。

	お屋 すぎ	いつ
	ワ ラビ ー	どうぶつ
	ち り よ う	しごと

・自分の生活経験と結び付けて振り返りを書く活動を、毎時間の終末に位置付けた。自身と結び付けながら書くためには、各段落の仕事内容について理解し、訳や工夫について細かく読み取る必要がある。そのため、全体交流の場で黒板に教材文を貼り、仕事内容の確認を全員で行った。その次に、なぜその仕事を行うのか、その仕事を行う際の工夫は何か読み取っていった。いのししのお腹に赤ちゃんがいるのか調べる仕事をするときは、えさをあげておとなしくさせるという工夫があるということを読み取った際、ある児童は自分の弟が泣いていたとき、好きなおもちゃを渡したら落ち着いて泣きやんだという経験を想起しながら、振り返りを書くことができていた。



⑤成果と課題（実践するときの留意点など）

○タブレット端末を活用したことで、児童が意欲的に取り組み、表にまとめる活動にも仲間と協力しながら進めることができた。

△小集団学習の前に、個人追究の時間を設け、はじめに自分の考えを明確にもたせる必要がある。

△小集団で学習を進める際、2年生はまだ小集団学習の経験が浅いため、班長を中心に形式を整え、何度も経験させていく必要がある。